

() () から () () 二堂(中尊寺の経堂と光堂)が開帳していた。

名前 ()

かねて耳驚かしたる二堂開帳す。

経堂は () () の木像を残し、光堂(金色堂)は三代の棺を納め、三尊の仏像を安置している。

経堂は三将の像を残し、光堂は三代の棺を納め、三尊の仏を安置す。

七宝も散逸し、宝玉をちりばめた扉も風のために破損し、金箔を貼った柱も霜や雪に朽ちて、

七宝散りうせて玉の扉風に破れ、金の柱霜雪に朽ちて、

とつくに () 草むらとなる () () であつたのだが、

既に退廃空虚の草むらとなるべきを、

堂の四面を新しく囲んで、(上は) () () で覆つて風雨を () () 、

四面新たに囲みて、甍を覆ひて風雨をしのぎ、

これによりしばらくの間は () () の記念を残すことになった。(昔の姿を今に残している)

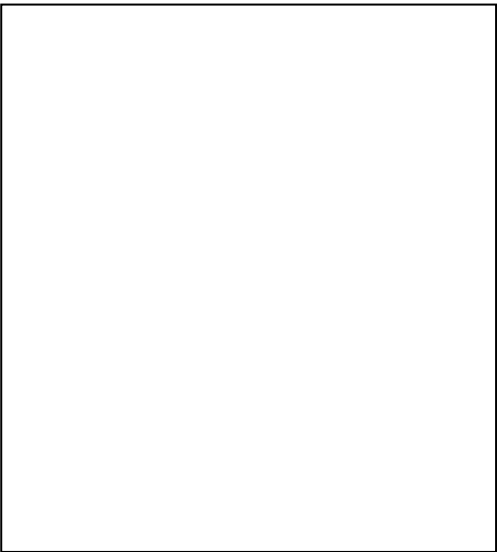
しばらく千歳の記念とはなれり。

物皆を腐らせるという五月雨も、ここばかりは降り残しているかのように、数百年来の風雨をしのいできて、

光堂はさん然と輝いている。

五月雨の降り残してや光堂

◆『おくのほそ道』『平泉』の全貌 位置関係



◆源氏の武将であつた () () の悲劇と、現在の岩手

県を中心として栄えた () () 一族の

栄華と衰退を表す () () の舞台が平泉である。

作者の () () は、門人の () ()

とそこを訪れ、涙を流しながら五百年の時の流れをはかなく感じた。

作者の思いを私は次のように考える(思う)。

